

緑の相談所だより

No.130

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



発行：平成23年6月1日

緑のセンターまつり 2011

日時：平成23年8月7日(日)10時～16時 神楽岡公園・緑のセンター

催し：青空体験講習会、花と緑の相談コーナー、園芸市、球根プレゼント、フラワービンゴゲーム、親子もちつき、ハンギングバスケットコーナー、農産物即売コーナー、納涼ビアガーデン、よさこいソーラン演舞、神楽岡太鼓ほか

展示：洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花ほか



講習会のご案内



「山野草の寄せ植えづくり」

とき 平成23年6月5日(日) 教材費¥1,000
午後 1:30～3:30 定員 20名
講師 北海草山草趣味の会 森下 光晴さん

「庭木の剪定」-ツツジ類など花木- (実習)

とき 平成23年6月19日(日)
午後 1:30～3:30 定員 30名
講師 公園緑地協会職員

「フラワーハンギングバスケットづくり」

とき 平成23年6月26日(日) 教材費¥2,000
午後 1:30～3:30 定員 20名
講師 フラワーマスター 山本 裕美さん

「観葉植物の寄せ植えづくり」

とき 平成23年7月10日(日) 教材費¥600
午後 1:30～3:30 定員 20名
講師 相談員



展示会のご案内

「山野草展」6月3～5日 「植物写真展」6月3～26日 「身近な自然環境と帰化植物展」7月1～31日
出展：北海道山草趣味の会 出展：森忠雄さん、尾崎麗子さん 出展：旭川帰化植物研究会

☆～お知らせ～☆

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日です。

11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

※各講習会のお申込み受付は前月の20日から、定員になり次第締切です。



☆花フェスタ2011☆

日時：6月8日～12日

場所：大雪アリーナ

※ 緑の相談コーナー設置



6月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

秋植え球根のチューリップなどは、花が終わったら、花がら摘みを行い、葉は刈り取らず、球根の肥大を図ります。

ダリア、グラジオラスなど春植え球根は植え付けの適期です。

観葉植物のカポックなど節間が伸び乱れた株は切り戻して剪定し、取り木をする時期です。また、根詰まりしている鉢は植え替えの適期です。

ポインセチアは剪定し、植え替えの時期です。処理後2週間までは水やりのみ、新芽の発生で液肥を与えましょう。

ハイビスカス、ブーゲンビレア、クチナシなど植え替えの適期です。ポイントは必要以上に鉢を大きくしないこと。(1号分程度)

シャコバサボテン、クジャクサボテンなどは外に出し太陽の光を十分に当てましょう。

2 庭木・果樹類

クロマツなどのマツ類は移植、定植の時期です。また、新芽が伸び樹形が乱れてくるのでみどり摘みといって柔らかい棒状の芽を指で折って調整しましょう。

ツツジ、シャクナゲ、ライラックなどは花後、花がら摘みをしましょう。

リンゴ、ナシはなるべく早く一箇所から出た複数果実のうち形が良くて大きい果実を1つ残し、プラムやプルーンは果実がぶつからない程度に摘果しましょう。

ブドウの副芽や込み合っている芽を摘除する芽かきを行います。また新梢は受光環境をよくするため早めに誘引しましょう。

モモシンクイガの発生が多くなるので、リンゴ、ナシは袋かけ(6月下旬~7月上旬)をし、スモモ類は定期的に殺虫剤を散布しましょう。

7月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

パンジー、デージーは来年の春花壇用に中旬ごろまでに種をまきましょう。

春植え球根のダリア、カンナ、グラジオラスなどは盛んに生長しているので、支柱を立て開花後は花がら摘みをしましょう。

ブーゲンビレアは開花期です。開花後、新梢が伸びたら順次切り戻し、水やりを控え、日当たりの良い場所で管理しましょう。

ポインセチアは生育が盛んな時期です、肥料と水は切らさず、日光に十分当てましょう。

クジャクサボテンは直射日光に十分当て肥培管理し茎を太らせましょう。

四季咲きペコニアの伸びた茎をピンチ(切り戻し剪定)することで新芽が伸び、次々と花をつけるので忘れないようにやりましょう。

2 庭木・果樹類

針葉樹の枝は葉が付いていないと枯れやすいので、深く刈り込んだ強剪定はできませんので注意しましょう。

生垣、玉物、イチイ(2度刈り)の剪定時期です。なお、花木類はすでに花芽ができかかっているため刈り込むと全体の花芽を落としてしまうので注意しましょう。

ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジなどは花芽ができる時期なので、リン、カリを多く含む肥料を与えましょう。

果樹類はモモシンクイガの最盛期になるので、殺虫剤を散布しましょう。リンゴに黒点病、ナシに赤星病などが発生しやすいので殺菌剤を散布しましょう。

リンゴ、ナシ、サクランボ、スモモなどは枝の背面から直立した枝(徒長枝)が勢い良く出て、日当たりを悪くするので剪定しましょう。(夏剪定)

植物の病害虫

その10 「モモの縮葉病」

萌芽後から展葉期にかけ気温が低く雨が続く気象条件下で発生は多くなります。最近の発生は少ないようですが、防除を怠ると被害を生ずる病害です。

1 寄主範囲

モモ、ウメ、アンズなど

2 病徴

主として葉に発生しますが、時には花卉、幼果、新梢にも発生します。春、未展開の新葉に鮮かな赤色あるいは黄色の火ぶくれ状の病斑が現れ、成葉になるにつれてこの部分が厚くなり大きくふくれ上り、焼いたかき餅に似た異様な葉に変わります。新梢に出る新葉がつぎつぎに侵されるため、枝全体、激しい場合は樹全体が被害葉で覆われてしまいます。やがて病斑の表面を白粉が覆い、ついで被害葉は黒褐色に腐りはじめ、しおれ、落下します。果実にも火ぶくれ状の病斑ができます。

3 伝染経路

発病した葉の上に形成された胞子は飛散して枝や芽の付近に付着し、菌塊を形成し越冬します。翌春、これらの胞子が降雨によって飛散して発生源となります。菌は展葉した新しい葉の裏面から侵入します。伝染は展葉初期の天候が不順で、雨の降り続くときに繰り返され、現れる新葉はつぎつぎに感染します。越冬源からの伝染（一次伝染）が続きますが、発病葉からの伝染（二次伝染）は本病の場合は全く行なわれません。

本病は、枝や芽の表面に胞子が付着して越冬していますので、休眠期に入念に薬剤散布すれば、発生源を根絶することができ、発芽後の防除は不要といわれています。かけむらがあるとそこから病気が発生しますので、丁寧に薬剤を散布してください。展開後の発病が激しい場合は薬剤の散布が望ましいですが、高い効果は期待できません。また、被害葉の摘み取りもあまり意味がありません。

4 発生環境

病原菌は比較的低温を好むため、萌芽後の気温が低く雨が続く場合などに多発します。

5 防除

① 発芽直前に薬剤散布を行いましょう。

病原菌は枝や芽の表面に付着し内部に侵入していないため、薬剤散布の効果は大きい。散布にあたっては、展着剤を加えて、樹全体を洗い流すようにかけると効果が高くなります。

散布終了後に降雨があつて効果があやぶまれる場合は、再度散布しましょう。

② 翌年の伝染源をなくすために、病葉は表面が粉っぽくならないうちに摘み取りましょう。

ポタンの花後の管理

中国西部山地の原産のため、寒さに強く北国の気候に適した花木です。

～来年も良い花を咲かせるための管理～

◎花がら摘み

放置すると種子ができ、株が消耗します。また大きな花びらは散ったままでは、灰色かび病が多発します。花のすぐ下で切り取りましょう。

◎腋芽かき

腋芽かきをしないと上部に花芽がつき、丈が高くなってしまいます。新梢の基部の2～3芽を残して上部の芽をかき取ります。このことにより花芽の着生位置を低くする事が出来ます。出来るだけ早い時期に行いましょう。

◎剪定

折れ枝、枯れ枝、病害虫に侵された枝の処置程度が適当です。

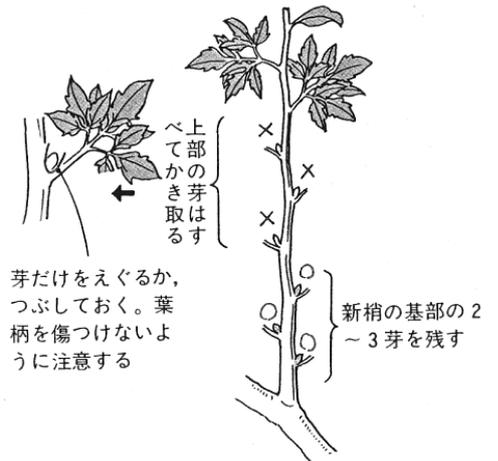
◎土寄せ

シャクヤクを台木としているので、ポタン自身の根を早く出させるため土寄せをします。土寄せをしないで、空気に触れて乾いていると発根しません。

◎肥料

ポタンは肥料を欲しがらる花木です。早春・花芽形成のための開花後・根の伸長のある9月の施用を計画しましょう。

腋芽かき



腋芽かきをしないと上部に花芽がつく

腋芽かきをしないで花を咲かせると、翌春は丈が高くなって開花する。数年放置しておくと、やがて花茎が倒れるし、低い位置で剪定すると花芽がなくなる

展示室の植物(37)

ムラサキオモト

メキシコからグアテマラ、西インド諸島が原産の常緑多年草で、一種一属の植物です。葉の表が暗緑、裏が輝きのある紫色で姿がオモト(万年青)に似ていることからムラサキオモトの名がありますが、全く別種です。

葉は長披針形で、質はやや硬く長さは20cm位で先が尖っています。花を包むような苞葉の中から小さな白い3弁花を咲かせます。古くから栽培され、性質は強健です。

ツユクサ科 ムラサキオモト属

